

西目高校（由利本荘市）の3年生が、「実用国語」の授業で、「会員制交流サイト（SNS）の誹謗中傷」をテーマに意見文を書きました。

## 便利な道具を凶器にしない

神坂 風花  
ふうか

「死ぬ」「消えろ」。最近では、このような言葉がインターネット上で多く飛び交っている。会員制交流サイト（SNS）などの情報の受発信に便利な「道具」が増えたことによって、ネ

ット上での誹謗中傷が問題になっている。

昨年5月、マレーシアで、一人の少女が自殺した。少女はインスタグラムに「私がD（死）かL（生）を選ぶのを助けて」と投稿したという。少女は、閲覧者の69%が「死」を選んだ後に自殺していた。

きつと、この少女は引き留めてほしかったのだと私は思う。SNSで生死を決めるまでに追い込まれてし

まっていたのだから、そこに至るまでに周囲の人から誹謗中傷を受けていたのかもしれない。

SNSはとても便利な道具で、現代人には欠かせないものになっているが、その道具が時に人の生死を分ける凶器になってしまう。

誹謗中傷コメントを自動で非表示にする有料サービスがあるが、無料にしてもつと広まると良いと思う。そもそもそういったサービスに頼らず、一人一人の意識で書き込みを止められるのが理想だ。コメントを書き込む前に、自分が言われたらどう思うか、もう一度考えてほしい。そして、本来の正しいSNS利用ができるようにしたい。

ボイス  
Voice

西目高校3年①  
(由利本荘市)

## 利用者が節度持ち、罰則強化も

高橋 菜  
ななか

最近、インターネット上の誹謗中傷が問題となっている。会員制交流サイト（SNS）で生きるべきか死ぬべきか投票を募り、その結果を受けて自殺したとみられるマレーシアの16歳少女や、同じくSNSで毎日100件近い誹謗中傷を受け、その後自殺した人気リアリティー番組「テラスハウス」出演者の木村花さん

などがニュースになった。私は、これらのニュースを見て対策について考えた。まずは利用者個人が節度を持つことはもちろん、監視して削除するシステムや罰則を強化し、環境的にも変えていくべきではないか。

今は、誹謗中傷コメントを自動で非表示にできる有料サービスもあるという。ただお金がかかると、一部の人しか利用しないのではないかと思った。

SNSでの誹謗中傷はなくなるのが一番だが、簡単にはなくならないのが現実である。システムが強化されるとともに、誹謗中傷から利用者を守ってくれるサービスが充実し、それを誰もが簡単に利用できるようなればいいと思った。

ボイス  
Voice

西目高校3年②  
(由利本荘市)